

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	石原不動産鑑定士事務所
世田谷(都) - 42	東京都	区部第 7	氏名	不動産鑑定士 石原 伸彦 印

鑑定評価額	136,000,000 円	1 m ² 当たりの価格	628,000 円 / m ²
-------	---------------	-------------------------	----------------------------

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 3 年 7 月 1 日	(4)鑑定評価日	令和 3 年 7 月 2 日	(6)路線価	[令和 3 年1月]	500,000 円 / m ²
(2)実地調査日	令和 3 年 6 月 25 日	(5)価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	倍率種別	倍
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		世田谷区尾山台一丁目 1 6 番 1 外 「尾山台 1 - 1 7 - 4」				地積 (㎡)	217 ()	法令上の規制等	
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給 処理施設 状況	主要な交通施設との 接近の状況		1 低専 (40,80)	
	1 : 1.5	住宅 L S 2	中規模の一般住宅が多い 住宅地域		南西 6.2 m 区道	水道、 ガス、 下水	九品仏 760 m		高度 (1 種) (その他) 風致地区	
(2) 近隣地域	範囲	東 90 m、西 40 m、南 30 m、北 10 m				標準的使用	低層住宅地			
	標準的画地の形状等		間口 約 12.5 m、奥行 約 17.5 m、規模 220 ㎡程度、形状 長方形							
	地域的特性	特記事項 特にない		街路 基準方位北 6 . 2 m 区道	交通施設	九品仏駅 南西方 760 m		法令 規制	1 低専 (40,80) 高度 (1 種) 風致地区	
	地域要因の将来予測	近隣地域は低層住宅地として熟成しており、地域要因に特段の変化はみられないことから、今後とも現状を維持すると予測する。今後の地価水準はやや弱含み傾向で推移するものと予測する。								
(3) 最有効使用の判定		低層住宅地					(4) 対象基準地の 個別的要因	方位		+4.0
(5) 鑑定評価の手法 の適用		取引事例比較法	比準価格 647,000 円 / ㎡							
		収益還元法	収益価格 353,000 円 / ㎡							
		原価法	積算価格 / 円 / ㎡							
		開発法	開発法による価格 / 円 / ㎡							
(6) 市場の特性		同一需給圏は世田谷区南部の戸建住宅地域を中心とする圏域であり、需要者の中心は区内居住者であるが、区外からの転入者も比較的多くみられる。供給は建売住宅が多いが、やや規模の大きい土地は建築条件なしでの販売も比較的多くみられる。コロナ禍により減少した建売住宅の取引件数は回復傾向にある。建売住宅は総額 7 , 0 0 0 万円 ~ 1 億円程度の物件が、土地は総額 1 億円前後の物件が需要の中心であるとみられる。								
(7) 試算価格の調整・ 検証及び鑑定評価 額の決定の理由		比準価格は住環境が基準地と同等あるいは格差が小さい事例を重視して適切に試算された。一方で収益価格は低層共同住宅を想定したが、容積率が低く投資採算性に見合う賃貸用建物が建設できないなど需要者は収益性ではなく住宅地としての快適性を重視して価格決定する傾向が強いため信頼性は劣る。よって、比準価格を重視し、収益価格を比較考量して、公示価格を規準とした価格及び指定基準地からの検討も踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。								
(8) 公規価 示価格 と格し をた	□ 代表標準地 ■ 標準地 標準地番号 世田谷 - 28		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の規準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標準 街路 0.0 地 街路 0.0	
	公示価格 695,000 円 / ㎡		[99.6] 100	100 [104.0]	100 [110.2]	[104.0] 100	628,000		準 交通 0.0 域 交通 +2.0	
									化 環境 0.0 要 環境 +8.0	
(9) 指か 定ら 基の 準検 地討	指定基準地番号 世田谷 (都) - 17		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の比準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標準 街路 0.0 地 街路 0.0	
	前年指定基準地の価格 734,000 円 / ㎡		[100.5] 100	100 [100.0]	100 [122.0]	[104.0] 100	629,000		準 交通 0.0 域 交通 +5.0	
									補 画地 0.0 要 環境 +15.0	
(10) 対年 象標 の基 準検 準価 討地 格の 等前 か	- 1 対象基準地の検討 ■ 継続 □ 新規 前年標準価格 634,000 円 / ㎡ - 2 基準地が共通地点 (代表標準地等と同一地点) である場合の検討 □ 代表標準地 □ 標準地 標準地番号 - 公示価格 円 / ㎡			価 格 変 動 形 成 要 因 の	〔 一般的 要 因 〕 〔 地 域 要 因 〕 〔 個別的 要 因 〕	世田谷区の人口は横ばい傾向、土地取引件数は回復傾向、成約平均価格も回復傾向で推移しているものとみられる。				
	戸建住宅地域であり住環境等に特に変動はみられない。コロナ禍による取引の停滞感からは回復傾向にある。									
	個別的要因に変動はない。									